

緑のまきば

2011年 No.44

小金井緑町教会

小金井市緑町四一六一三三

☎ 042-381-7961

牧師 山畑 謙

説教

『大丈夫』

山畑 謙

2011年度
の聖句

「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。」

(一ヨハネ五・一四)

二〇一一年度の聖句を深く味わい知るために、前後のつながり(文脈)に注目したいと思います。一三節に、「神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです」とあります。その上で、「何事でも神の御心に適うことを……」と続いているのです。

わたしたちが永遠の命をすでに得ている、すなわち救われているということを「悟る」事と、二〇一一年度の聖句にある「願いが聞き入れられる」という確信を持つ「事とは切つて

も切れない関係です。

「永遠の命を得ていると悟る」のはなかなか難しいものです。信仰に燃えていて調子のいい時には、そうだと感じるでしょう。しかし思わぬことから、自分の不信仰さに打ちひしがれて、「こんな自分が救われているはずがない」と思ったり、永遠の命を得ていることを疑い出します。悟っているつもりでいても、それはまことに当てにならないものです。永遠の命を得ていることを悟るのは、実は自分の力ではできないものでしょう。

「悟り」が危うくなってしまうと、「確信」も怪しくなります。悟りや確信が、揺るぎない確かなものとなるのはなぜでしょうか。それが、「神の子の名を信じているあなたがた」との呼びかけに示されています。信じるとは、少し乱暴な言い方ですが、自分を放棄することです。それは無責任な生き方に聞こえるかもしれませんが、どこまでも自分に固執し、自分が主となって、自分を譲らず、自分が納得しないではすまない生き方は、かえって何も分からなくなってしまう、混沌の中に沈み込んでしまふのではないのでしょうか。わたしたちを含めて、この手紙を受け取っている人たちは、苦しみ迷いながらそのことに気付かされ、ついにイエス・キリストとの出会いを得てきていると思います。

「神の子の名」にある神の救いと神のご支配を信じて身をゆだねていく時、本当に永遠の命をいただいているのだと悟られるでしょう。そして「独り子をお与えになったほどに、世を愛された」神のご支配の中に生かされていると信じるが故に、私たちの願いが聞き入れられると確信するのです。そこで自分の願いが本当に神の御心に適うものであるかどうか、もちろん問題になります。しかし、その判断も、永遠の命を得ているかどうかを悟るのと同じく、自分で勝手に判断して決めつけるものではありません。隣れみ深い神のご支配の中に入れていただいたのだから、たとえ私たちが的外れな願いをしていたとしても、神は一番いいようにしてくださると信じ、ゆだねるので、もしも自分の願いが御心に適っていないと気付かされたなら、すぐに悔い改めて、やり直すのです。ですから、自分の願いが御心に適うか適わないかを思い煩うのではなく、そこもゆだねるのです。

次の一五節に、「わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるということが分かるなら、神に願ったことは既になんかえられていることも分かります」とあります。神のご支配の中で、最善にしてくださいと信じるのですから、それは願いがすでになんかえられているということなのです。

神は私たちを愛して、必ず一番良いようにしてくださいと信じ、御心を謙遜に祈り求めて、ゆだねつつ、新しい一歩を踏み出そうではありませんか。